講義名	ベンチャービジネス論					授業形態	
担当教員	長坂　泰之	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 ３時限				
		単位数	2	履修開始年次	２年生	ナンバリング・コード	MAN263

主題と概要

我が国の経済が活性化し繁栄し続けるためにはベンチャービジネスの出現や企業のイノベーションが必要です。この授業では豊かな経済を作り出す一助であるベンチャービジネスついて学びます。具体的には、我が国の経済発展の過程を俯瞰しながら、ベンチャービジネスの存在意義、事例を交えながらのベンチャービジネス経営の進め方、とベンチャービジネスに関わる経済政策の推移を考察します。
なお、この授業は、多くの学部学科の学生が履修できる科目です。よって、特定の学部、学科、コースのディプロマ・ポリシーと結びつけて表現することは、あえて避けておきます。ただし、鍵となるのは以下の概念になります。
１．経済の活性化、繁栄には、ベンチャービジネスの出現（新たなビジネスの創出）、企業のイノベーションが不可欠であること。
２．ベンチャービジネス経営とその特徴、主体となる組織はやがて法人化することが多いが、個人からスタートすることも多いこと。
３．上記をスムーズに実現するためには個々の組織の努力は必要であるが、経済政策の存在も見逃せないこと。
４．以上を総合して理解していくことが、この授業の主題であり概要です。

到達目標

ベンチャービジネスに関する基本的な知識、またベンチャービジネスおよび企業経営に関する基本的な知識を理解することを目標とします。併せて、将来起業したいという学生のために、起業の実現と発展のためのポイントを学びます。
加えて、ベンチャービジネスは国の経済発展において大きな役割を担うことが期待されていますので、その役割を理解するとともに、経済政策から展開される諸施策をいかに活用するかを理解することも目標です。

以上を皆さんの立場から「〇〇することができるようになる」という形で表現すると以下のようになります。繰り返しで恐縮ですが、しっかり確認の上で履修登録してください。

１．ベンチャービジネスに関する基本的な知識、またベンチャービジネスおよび企業経営に関する基本的な知識を理解することができるようになる。
２．将来起業したいという学生が、起業の実現と発展のためのポイントを理解することができるようになる。
３．ベンチャービジネスは国の経済発展において大きな役割を担うことが期待されていますので、その役割を理解するとともに、経済政策から展開される諸施策をいかに活用するかを理解することができるようになる。

以上となります。しっかり確認してください。

提出課題

１．毎回のレポート
レスポンを使用して、毎回の授業で当該授業の理解度チェックを兼ねたレポートが出ます。
２．また、授業中にResponなどを使用して、教室内の意見を集約・発表することなどによって、様々な考え・意見が存在することを理解するとともに、自らの考えや理解を深めることを目指します。
３．期末まとめテスト（レポート方式）を行います。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

必要に応じて、講義連絡、次回以降の講義、メール等により講評、解説を行います。

評価の基準

１．毎回のレポート及び授業への参加意欲等　65%
毎回の課題Responは最低9回以上の提出を必須とします。　評価は、課題Responnに加えて、授業中に出すResponの回答内容、参加意欲なども考慮して決定します。
２．期末まとめテスト（レポート方式）35%（必須）

毎回のレポートで、定性的な記述において、全く同様の内容、酷似した内容、ネット等からそのままのコピペについては、関係した全ての学生のレポート評価を0評価とします。

履修にあたっての注意・助言他

１．講義連絡について
基本的にRYUKAポータルの「講義連絡」を通じて、講義の連絡、テキストの配布及びレポートの内容・期限等を通知します（対面の履修生には講義資料を配布します）。
２．レポートなどの期限について
レポート、レスポンの提出期限は厳守です。また、レスポン番号の間違い等による提出ミスは「未提出」扱いになるので十分気をつけてください。
３．日常から関心を持つこと
ベンチャービジネスや企業経営にかかわるニュースに関心を持って生活してください。また、そのようなニュースに、授業で学んだことを当てはめる習慣をつけてください。
具体的には、新聞や雑誌、インターネット等を通じて、ダイナミックな経営を行なっている企業を見つけ、その企業がどのような経営を行っているかを継続的に観察してみるとよいでしょう。さらに進めると、その企業の歴史（企業の経緯、発展の経緯、取扱商品やサービスの推移、市場展開の推移など）を調べてみるのもよいでしょう。企業の現在は過去の延長線上にあります。現状と過去を結合することで企業活動をより良く理解することができます。この手法はベンチャー企業だけではなく、色々な企業の研究にも活かせるはずです。

教科書

.アントレプレナーシップ入門（新版）.	忽那憲治他	有斐閣ストゥディア	2200	9784641151024

参考図書

.起業の科学／スタートアップサイエンス.	田所雅之	日経BP社	2300	9784822259754

その他

１．授業で使用する資料は講義連絡でポータルにアップします。各自、ダウンロードしてください。
２．教科書である「アントレプレナーシップ入門」は第2回目の授業から使用しますので、必ず購入して下さい。

授業計画

1.ベンチャービジネスの歴史とベンチャー支援政策
【予習内容】（各60分、合計120分）
①事前のキャンパスクロス等で送付されたテキストを確認し、当該回の授業の全体像を理解しておくこと。
②テキストで説明されていない用語のうち、理解できない用語については予め調べておくこと。
【復習内容】（各60分、合計120分）
①授業中に提出した課題を含めて学んだことの振り返りを行い、重要事項を中心にその内容を整理すること。
②毎回出題される課題について、出題の真の意図を理解したうえで、期限内に課題に取り組み提出すること。

2.アントレプレナーシップを学ぶ重要性と楽しみ
【予習内容】（各60分、合計120分）
①事前のキャンパスクロス等で送付されたテキストを確認し、当該回の授業の全体像を理解しておくこと。
②テキストで説明されていない用語のうち、理解できない用語については予め調べておくこと。
【復習内容】（各60分、合計120分）
①授業中に提出した課題を含めて学んだことの振り返りを行い、重要事項を中心にその内容を整理すること。
②毎回出題される課題について、出題の真の意図を理解したうえで、期限内に課題に取り組み提出すること。

3.事業機会①「新しい事業機会を見つけよう」
【予習内容】（各60分、合計120分）
①事前のキャンパスクロス等で送付されたテキストを確認し、当該回の授業の全体像を理解しておくこと。
②テキストで説明されていない用語のうち、理解できない用語については予め調べておくこと。
【復習内容】（各60分、合計120分）
①授業中に提出した課題を含めて学んだことの振り返りを行い、重要事項を中心にその内容を整理すること。
②毎回出題される課題について、出題の真の意図を理解したうえで、期限内に課題に取り組み提出すること。

4.事業機会②「事業機会を評価してみよう」
【予習内容】（各60分、合計120分）
①事前のキャンパスクロス等で送付されたテキストを確認し、当該回の授業の全体像を理解しておくこと。
②テキストで説明されていない用語のうち、理解できない用語については予め調べておくこと。
【復習内容】（各60分、合計120分）
①授業中に提出した課題を含めて学んだことの振り返りを行い、重要事項を中心にその内容を整理すること。
②毎回出題される課題について、出題の真の意図を理解したうえで、期限内に課題に取り組み提出すること。

5.事業機会③「アイデアを育ててみよう」
【予習内容】（各60分、合計120分）
①事前のキャンパスクロス等で送付されたテキストを確認し、当該回の授業の全体像を理解しておくこと。
②テキストで説明されていない用語のうち、理解できない用語については予め調べておくこと。
【復習内容】（各60分、合計120分）
①授業中に提出した課題を含めて学んだことの振り返りを行い、重要事項を中心にその内容を整理すること。
②毎回出題される課題について、出題の真の意図を理解したうえで、期限内に課題に取り組み提出すること。

6.マーケティング①「収益の仕組みを考えよう」
【予習内容】（各60分、合計120分）
①事前のキャンパスクロス等で送付されたテキストを確認し、当該回の授業の全体像を理解しておくこと。
②テキストで説明されていない用語のうち、理解できない用語については予め調べておくこと。
【復習内容】（各60分、合計120分）
①授業中に提出した課題を含めて学んだことの振り返りを行い、重要事項を中心にその内容を整理すること。
②毎回出題される課題について、出題の真の意図を理解したうえで、期限内に課題に取り組み提出すること。

7.マーケティング②「どこで買ってもらうのか」
【予習内容】（各60分、合計120分）
①事前のキャンパスクロス等で送付されたテキストを確認し、当該回の授業の全体像を理解しておくこと。
②テキストで説明されていない用語のうち、理解できない用語については予め調べておくこと。
【復習内容】（各60分、合計120分）
①授業中に提出した課題を含めて学んだことの振り返りを行い、重要事項を中心にその内容を整理すること。
②毎回出題される課題について、出題の真の意図を理解したうえで、期限内に課題に取り組み提出すること。

8.マーケティング③「ライバルをいかに差別化するか」

授業形態（アクティブ・ラーニング）

○	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
○	ウ：ディスカッション、ディベート	○	エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本授業は「商学部・経営学科・ビジネスリーダーコース」および「商学部・経営学科・起業・事業承継コース」と関連が深い科目です。当該コースのディプロマ・ポリシーである、①新事業を創出するための基礎となる、マーケティング理論や経営理論を理解できる、②起業や事業承継（第二創業）、社内ベンチャーなどについての夢やビジョンを、具体的な事業計画として立案することができる、この２つを目標にしています。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

社会は正解はひとつではありません。自由な発想で考え、発言する機会があれば積極的に発言してください。
Responなどを使用して、教室内の意見を集約・発表することなどによって、様々な考え・意見が存在することを理解するとともに、自らの考えや理解を深めることを目指します。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。
国の政策実施機関である独立行政法人中小企業基盤整備機構に30年以上在籍。経済産業省登録中小企業診断士として、公的な立場から多くの現場を経験しています。代表的な実務経験は以下のとおりです。
①中小企業の融合化（産学官民連携）
②人材育成（中小企業診断士養成、中小企業経営後継者育成、ベンチャー支援研修の企画、運営等）
③インキュベーション運営（ベンチャービジネスの孵化装置）
④中小企業の資金調達に関する経営診断

備考

なし